

These two different meanings of “hot” / **may seem confusing** / to Japanese students, / **but as a matter of fact**, / the word is the right **one** / for **describing the way** [the body responds to spice and heat].

= spicy, high temperature
譲歩
逆接 主張 = “hot” = word
(how)
the way (how) ... 「…の方法で」

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を、誤っていれば×を記入しなさい。

- The word “hot” has two different meanings. ()
- Our body reacts in totally different ways to spicy chemicals and a rise in temperature. ()
- The word “hot” is used both for spicy foods and for a rise in temperature because the same nerves react in both cases. ()

覚えておきたい表現

■ as ～「～のように」

ℓ.2 : are they talking about its temperature, **as** in “hot” coffee? 『『ホット』コーヒーと言う場合のように、食べ物の温度について話しているのだろうか。』

・ as in “hot” coffee 『『ホット』コーヒーと言う場合のように』: 接続詞 as は多様な使い方をするが、この「～のように」は最も注意を要する用法。ここでは in とともに用いられて、as in ～「～の場合のように」という意味で用いられている。

Ex. Do **as** I told you. 「私が言ったようにしなさい。」

■ may seem + 形容詞, but ... 「～に思われるかも知れないが、しかし…」

ℓ.3 : These two different meanings of “hot” **may seem** confusing to Japanese students, **but** ... 「こうした“hot”という単語の2つの異なる意味は、日本人の学生にとってはややこしいように思われるかも知れないが、しかし…」

・ may seem + 形容詞, but ... 「～に思われるかも知れないが、しかし…」: 譲歩表現の1つのパターン。but 以下が筆者の本当に言いたいことである。

Ex. This problem **may seem** difficult to you, **but** actually it won't take a minute to solve it. 「この問題はあなたには難しいと思われるかも知れないが、実際は解くのに1分もかからないよ。」

■ 仮定を含む S+would do 「もし S ならば～だろう」

ℓ.6 : **A simple explanation would go** something like this: ... 「簡単な説明は、次のようになるだろう。つまり…」

・ A simple explanation would ... : would が使われている理由を考えよう。ここでは would は**仮定**を表す表現として用いられている。if 節はどこにもないが、主語の中に仮定が含まれている。ここでは「簡単に説明するとしたら」ということ。

Ex. **A real gentleman would** not **say** such a thing. 「本当の紳士だったらそんなことは言わないだろうに。」

・ something like ～「やや～のようなもの」。

Ex. His excuse for being late was **something like** “I couldn't sleep last night”. 「彼の遅刻の言い訳は『夕べ眠れなくて』とかいうものだった。」

■ both A and B 「A も B も両方とも」

ℓ.7 : the same nerves in the mouth react **both** to spicy chemicals in the food **and** to a rise in temperature 「口の中にある同じ神経が、食べ物の中の香辛料の化学物質と温度の上昇の両方に反応する」

・ both A and B 「A も B も両方とも」: A と B には、文法的に等しいものがくる。

Ex. Bill felt relaxed **both** at home **and** in his office. 「ビルは自宅でも会社でも両方でくつろいでいた。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

・ “hot” の持つ2つの意味: 「香辛料のきいた」 / 「熱い」

◆ ℓ.4 **may** 「～かもしれない: 譲歩」

→ 日本人学生には紛らわしいかもしれない。

◆ ℓ.4 **but** 「しかし: 逆接」

◆ ℓ.4 **as a matter of fact** 「実際のところ: 主張」

・ この言葉は適切だ

・ 説明: 口の中の同じ神経が、香辛料の刺激物と温度上昇の両方に反応する。

(結論)

◆ ℓ.9 **therefore** 「したがって: 結果・結論」

・ この “hot” という表現は、人体の事実を正しく言い表している。

背景知識

● 神経での刺激の伝わり方から説明できる英語の hot — 本文の補足として —

英語の hot の語源は heat につながっているため、「熱い」という状態を表す語となるが、その一方で、hot は料理が「刺激のある状態」であることも表す。この料理が刺激的であるということを示す hot の初期の用例は、シェイクスピアの『じゃじゃ馬ならし』の第4幕第3場に見られる。「じゃじゃ馬」のカタリーナが、マスタードを食べるのは “too hot” だと言うのがそれである。これを舌の感覚が脳に伝わっていくプロセスで考えてみたい。

実は、「熱い」と感じる刺激と「辛い」と感じる刺激は、いずれも同じ刺激として伝わる。

現在のところ、胡椒や唐辛子などを口にした時に「辛い」と感じる刺激である「辛味」は、基本五味（「苦味」「酸味」「甘味」「塩味」「旨味」とは異なるものとされている（元来は「辛味」も含まれていたが、「旨味」に取って代わられた）。そして、辛味は、味を感じる器官である舌の味蕾を通さず、温度や痛みを感じる温痛覚を刺激してそれが脳に伝わる、ということが通説となっている。したがって、この説に準ずる限り、「辛味」は温痛覚で感じられるので、「熱さ」を感じるのと同じ伝導路を通ることになり、その両者を hot と表現するのはむしろ自然であると言える。

深めたい人に: 小長谷正明『脳のはたらきがわかる本』（岩波書店、2006年）、ウィリアム・シェイクスピア著、福田恆存訳『じゃじゃ馬ならし・空騒ぎ』（新潮社、1972年）